

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 福岡工業 高等学校

48

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>豊かな人間性と創造的な知性を備え、社会や文化の発展に主体的に貢献できる工業人材を育成する学校 実習や課題研究等の実践的な教育や、地域の産業界及び大学等との連携を通して、日本の産業社会が求める資質・能力を備えた工業人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学ぶ態度やチャレンジ精神を育成し、創造性豊かで確かな学力を身に付けた生徒の育成 ・科学技術創造立国日本の次代を担う、創造的・実践的技術者としての基礎的な知識と技術・技能を習得した生徒の育成 ・人権尊重を第一に、高い規範意識と自尊感情を有し、人や自然を大切にす豊かな心を持った生徒の育成
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職と進学の見路に対応した選択科目の設置 ・実験・実習や課題研究等を通じたものづくり活動の充実 ・地域の産業界や大学等と連携し、最先端の技術を学ぶなど、実践的な学びを充実 ・専門的な資格・検定等取得するための指導を充実 ・生徒会活動、部活動を推進、また、ボランティア活動を推奨
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正義感が強く、礼節を重んじ、自ら考え行動できる人 ・志を高く持ち何事にも粘り強く果敢に挑戦する人 ・ものづくりや工業技術に対する興味・関心が強い人 ・工業に関する資格・検定等に向けて積極的、意欲的に取り組む人 ・工業技術者として産業社会で活躍したい人 ・高校での学びを基に理工系大学へ進学したい人 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動を積極的に取り組む人

<p>学校運営計画(4月)</p>			
<p>学校運営方針</p>	<p>文武両道を校是とし、豊かな人間性と創造的な知性を備え、社会の発展と文化の創造に貢献できる工業人材を育成する。 1 校訓「質実剛健 自律 創造」を体現する生徒の育成を目指した教育活動を全教職員で推進する。 2 次代を担う工業人材を育成するリーダー校としての責務を果たすべく、ものづくり教育をとおして工業高校として魅力ある学校づくりに邁進する。 3 社会の変化やニーズに対応し、地域に愛される学校を目指すべく、職員間の情報共有と教育活動のスパイラルな改善サイクルの確立を図る。</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題</p> <p>昨年度は、コロナ禍の経験を踏まえ、ポストコロナの進化した教育活動の実践に取り組んだ。授業については、生徒が自ら学ぶ力の育成を目標に、授業の質を向上させるため、授業改善と指導力の向上に取り組み一定の成果を得た。また、体育祭や文化祭等の学校行事では、生徒が自ら考え行動する力の育成を目標に、生徒会組織の活性化による生徒の主体的な活動を推進することで、充実した学校行事を実施することができ、生徒の成長に大いに資するものとなった。 今年度は、職員間の情報共有と教育活動のスパイラルな改善サイクルを確立することで、教育活動の更なる充実に取り組む。授業については、「指導と評価の一体化」を定着させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現とICT活用の充実により教育の質の向上に取り組む。また、特別活動や部活動の充実により生徒・保護者の学校満足度を高めるとともに、個々の教師のコーチングスキルを高めることで、生徒の将来へのモチベーション向上につなげる。さらに広報活動の充実に取り組み、特色ある教育活動など本校の魅力を発信することで、地域に愛される学校を目指す。</p>	<p>年度重点目標</p> <p>自ら学ぶ力の育成</p> <p>自ら考え行動する力の育成</p> <p>キャリア教育の充実</p> <p>工業教育の充実</p>	<p>具体的目標</p> <p>基礎学力の定着とともに学び方を身に付けさせ、学び続ける姿勢を育む。 観点別学習状況評価と「指導と評価の一体化」により個々の資質能力を高める。 「主体的・対話的で深い学び」の実現とICT活用の充実により教育の質を向上させる。 積極的生徒指導による自律心の育成及び規範意識の向上を図る。 Team Fukkoの精神の下、様々な集団での体験により主体的態度を育成する。 個々の教師のコーチングスキルを高め、生徒の将来へのモチベーションを向上させる。 キャリアデザインノートによる自己実現の支援を行う。 進路意識の向上を図るガイダンスや外部機関との連携を効果的に実施する。 企業就職・公務員や大学進学への幅広い進路指導を充実させ、個々の生徒の希望進路の実現を図る。 各学科の特徴を生かした教育活動の推進と専門的指導力の向上を図る。 スマート専門高校、実習棟改築を契機とした実習内容の検討・充実を図る。 ものづくり、国家資格、研究・競技大会等への指導体制を充実させる。</p>	<p>A</p>

		自己評価					学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
教務部	学務	自ら学ぶ力の育成と、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行う。	基礎学力の定着とともに個に応じた学習指導の工夫を通して家庭学習を充実させる。	プロジェクターの活用 昨年度比較 2%増	B	B	B	・各教科・学科の協力もあり、家庭学習は充実してきている。しかし、ICT活用、特にタブレットを使用した授業についての研修が実施できなかった。次年度は必ず実施する。	B	・情報活能力を育成するためにもICT環境を充実させて欲しい。 ・タブレットを活用する際には、振り返り等を充実させ、思考の深まりにつなげて欲しい。
		「指導と評価の一体化」及び新学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別評価を定着させる。	研修図書課と連携し、ICT活用の充実により教育の質の向上に取り組む。		B					
		「指導と評価の一体化」及び新学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別評価を定着させる。	研修図書課と連携し、さまざまは研修を通して観点別評価を定着させる。	家庭学習 よくしている 昨年度比較 2%増	C	B				
			観点別評価の評価規準を作成し提示することで、個に応じた学習指導を充実させる。		B					
	メディア	新ホームページへの移行を行うとともに、生徒メディア委員会を通して教育活動の発信を行う。また、授業おける教員及び生徒のICT活用を充実させる。	新ホームページへ移行を行い、各分掌や部活動と連携を行い内容の充実を図る。	・インスタグラム投稿数69 ・新入生ICTスキルアップ研修、十分理解できた77.6%、理解できた21.9%	A	A	A	・各分掌及び学科の協力により新ホームページシステムへの移行をスムーズに行うことができた。また、更新を適時行い、充実した内容を提供できている。次年度は、さらに更新回数を増やしたり、表示方法を工夫しホームページを充実させる。	A	・SNSの適正利用について指導の徹底をお願いしたい。 ・インスタグラムでの本校の魅力発信は生徒募集に効果的であると考えられる。
			メディア委員会を通じてインスタグラムやYouTubeを活用して教育活動の発信を行う。		A					
			新入生に向けてICTスキルアップ研修を実施し、Googleアカウントの活用を図る。		A					
	研修図書	校内外の研修を通して、教師個々のスキルを高めることで指導力向上につなげる。	研究授業・公開授業週間を充実させ効果的な研修となるように、積極的な支援を行う。	授業の理解度 理解出来ている:90.2% ICTの利用:15.8%増	B	B	A	・授業の理解度は高いが、次年度も更なる授業改善に取り組む。ICT機器の利用が前期と比較して15.8%増加した。研究授業等でICT機器を使用した授業を参観した結果だと考える。	A	・小・中学校もタブレットの活用が進んでいる。タブレットを活用した授業改善にも取り組んで欲しい。 ・工業高校にとって質の高い蔵書となるように充実させて欲しい。
			基礎学力の定着を図るために関係部署と連携して授業改善や教科指導力の向上に取り組む。		A					
		生徒を主体とした図書館の充実・整備と図書館利用の促進に努める。	文化祭、ライブラリ・ウィークや読書週間等の行事を活用し、図書館や読書への関心を高める。	図書委員の満足度 86%	B	A				
			蔵書を充実させると共に各種活動を通して図書委員としての自覚を養成し、活動の活性化を図る。		A					
		教育活動全般として、人権意識の涵養に努める。	全教職員協力の下、人権特設授業を充実させ生徒の人権感覚を向上させる。	研修会等への参加:100%	A	A				
教職員に人権教育に関する研修会への積極的な参加を促し、人権感覚と指導力の向上を図る。			A							
生徒指導	積極的生徒指導により基本的な生活習慣を確立させ、自律心の育成及び倫理観を含めた規範意識を向上させる。	生徒の多様化に対応した積極的生徒指導に取り組む。	・身だしなみ検査初回合格率:87% ・8時30分登校達成率:98%	B	A	A	・身だしなみ検査の初回合格率を向上させ、学年と連携した検査方法の確立を図る。 ・自転車ヘルメット着用の通学許可制に向け定着を図る。	A	・自転車ヘルメット着用に向けた取組は出来ている。引き続き、交通事故防止に取り組んで欲しい。 ・悩みや不安を持つ生徒への教育相談を充実させて欲しい。	
		安全教育(規律面、授業ルール、登下校等)をとおして、生徒・教職員の心理的安全性を高める。		A						
	教職員の連携を強化し情報共有を行い、いじめ事案の早期発見・早期対応及び教育相談体制を充実する。	教育相談週間を充実させ、初期段階の不安や悩みも聞き出せる体制づくりに取り組む。	いじめ認知件数(11月現在)6件	A	A					
		いじめ事案に対し積極的に認知を行い、早期発見・早期対応に取り組む。		A						
生徒会	Team Fukkoの精神の下、様々な集団での体験により主体的態度を育成する。	生徒が主体的に活動できる学校行事や部活動を活性化させるための企画・運営に取り組む。	各学校行事を生徒主体にて実施。文化祭・体育祭共に来校者が昨年度よりも20%程度増加(どちらも延べ4,000人超)	A	A	A	・各種委員会活動や有志活動を活発にし、生徒の主体的活動を促進する。各部活動の充実や強化を図り、成功体験や自己肯定感を向上させる。	A	・文化祭では工業高校の活動について理解できた。生徒募集につなげて欲しい。	
		委員会活動を充実させ各部署と連携することで、成功体験を増加させる。		A						
保健	保健委員会の活動を円滑に進め、健康教育を推進する。	保健委員会活動を計画的に行い、安心・安全な学校生活づくりに取り組む。	保健委員へのアンケート 安全な学校生活に貢献できた96%	A	A	A	・保健委員会の活動が次の学年につながるよう委員の選出などを考える。	A	・委員会活動の充実により、生徒の主体的な活動を期待している。	
		美化委員の活動をとおして学校美化に努める。	清掃の徹底を図り、清潔な学校づくりに取り組む。	美化委員へのアンケート 清潔な学校作りに大いに貢献できている61.1%、貢献できている38.9%						A

進路部	就職指導	生徒の進路意識の向上を図り、適性や希望進路に応じた支援を行う。	生徒の進路目標に応じ、クラス・学年・学科・コースと適切に情報共有を行い、指導の充実・強化を図る。 「進路の手引き」と「キャリアデザインノート」の活用推進を図り、進路実現に向けた意識の向上と支援を行う。 大学や専門学校、公的機関や企業などの協力を得て、講演や説明会の充実と効果的な実施に取り組む。	・3年進路研修会(5月) 全体講話・分科会実施 ・キャリア教育の回数及び内容の精選(各学年13回→10回実施に変更)	B B A	A	・学年、担任、学科との連携強化を一層図る。 ・キャリア教育内容の精選・改善、学年・担任への周知徹底を図る。 ・3年進路研修会・講演会・ガイダンス等、内容の充実を図る。	A	・計画的な進路ガイダンス等の取組は評価できる。 ・就職希望生徒の内定率100%や公務員合格者の増加などの実績は素晴らしい。			
		キャリア教育プログラムの実践から、各学年の進路目標に応じた活動を充実させ、卒業後に社会人・職業人として自己実現可能な基礎能力を養う。	ガイダンスや研修会の充実、応募前職場見学の推進に努め、生徒一人一人の高校生活の充実と進路意識の高揚を図る。 公務員の指導体制の充実を図るとともに、課外授業や模擬テストをとおして学力の向上と合格者増に取り組む。 就職決定100%を目標に、きめ細やかな相談と個を生かした指導に努め、1次試験における全員合格を目指す。学科・教科と連携を深め、学力と人間性の向上の指導に努める。	1次就職内定率93.4% 就職199/199名(100%) 公務員合格延べ人数12名→23名に増加	A A A					・公務員の最終合格者が増加した。指導の継続と改善に取り組む。 ・応募前職場見学の推進に取り組む。 ・年内の全員合格内定を継続する。一次試験内定率を100%を目標に指導する。		
		進学指導	進学目的を明確にもつことができるように、ガイダンスや説明会を効果的に実施し、生徒の進学支援を行う。	系統的なガイダンスや説明会を実施することで、生徒の進路意識の向上を図る。 生徒との個人面談を定期的に実施し、担任と情報共有することで、適性に合った進路選択の指導助言を行う。 進路に関する情報を収集・整理し、教職員間で共有することで進路指導力の向上を図る。	3年生 進路ガイダンス 3回開催 進学希望調査 3回実施 →進学希望調査を基に生徒と担当教員の面談を3回実施					A A B	・ガイダンスや説明会の実施内容や時期を検討し、充実を図る。 ・各学科や担任と連携し、生徒への適切な進路支援制度の構築を図る。 ・保護者や関係機関との連携強化を図る。	A
	希望進路実現だけでなく、進学後の学習に不足がない学力と学習力をみにつけさせる。	課外授業や校内模試において主体的な学習活動に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 資格取得や部活動等を奨励し、本校の特長を利用した入試制度での合格率の向上を図る。 進学後の学習を具体的にイメージさせ、継続的な学習指導をとおして自己学習力の育成を図る。	大学合格率(合格者/受験者) 総合型入試 85% 公募制推薦 71% 指定校推薦 98%	A A B	・課外授業を活用した学力の確実な定着を図る。 ・学力上位層への指導体制を構築する。 ・総合型入試へ向けて、各学科や教科と連携した受験支援に取り組む。 ・校内進学模試の実施方法を検討する。							
	学校行事を充実させるとともに、PTA活動との連携を深めることで学校教育力を向上させる。	行事の進行についての改善を行い、スムーズな学校行事運営を行う。 PTA活動をとおして保護者と学校との連携を深め、教育活動の改善に努める。	PTA総会参加者数215名 食堂実食123名	B A	・保護者との連携をさらに深め、教育活動のさらなる改善とスムーズな学校行事の運営に取り組む。							
	本校の特色ある教育活動の情報を発信するために、広報活動を充実させる。	学校案内等の媒体を一新し、魅力のある出前授業や体験入学を行う。 学校外での広報活動の機会を増やし、特色ある教育活動を発信する。 メディア課と連携し、ホームページの充実を図る。	体験入学に参加して 受験しようと思った57% まだわからない42% 学校説明会に参加して 受験しようと思った69% まだわからない31%	A B A	・体験入学で本校を知り、学校説明会で学科を絞る流れは、良い評価を得た。 ・ホームページを充実させ、中学生に本校の魅力を発信する。 ・中学生及び保護者への体験・見学・説明の機会を増やす。 ・中学校の先生向け説明会を実施する。							
庶務								・PTAと連携した取組は評価できる。 ・様々な場面で本校の魅力を発信し、広報活動を充実させて欲しい。				
学年	1学年	福工生としての自覚と誇りを持たせ、自律心と協働力を涵養し、文武両道で豊かな人間性と知性を備えた社会で貢献できる人材の基礎を身に付けさせる。	時間を守る等の生活習慣や集会での姿勢などの日常における基本的な姿勢について凡事徹底を図る。 各教科と連携して課題を活用して基本的な学習習慣を身に付けさせ、検定や資格取得へ積極的な挑戦を促す。 保護者や各学科・分掌との情報共有を密にして生徒の安全な学校生活を確立する。	・キャリアデザインノート ・授業アンケート 授業の理解度普通以上98% ・学校生活アンケート 不安なく安心して学校生活を送れている割合99%	A B B	B	・基本的な生活習慣は確立させることができたが、学習面では課題が多かった。次年度は生徒情報も含めて各学科や分掌、教科との連携強化を図り、学習面や身だしなみ等の生活面における指導の充実に取り組む。	A	・アンケートで、「不安なく安心して学校生活を送れている」の項目が高い数値となっているのは素晴らしい。継続した取組を期待する。			
	2学年	学校の中核学年としての自覚を持ち、高い規範意識を土台とした、豊かな人間性の育成を目指す。	積極的な生徒指導による自律心の育成及び規範意識の向上を図り、学校行事等を牽引する学年をつくる。 修学旅行の計画・実施を通して個々人の知見を広め、満足度の高い学校行事にする。 学校進路目標である「蓄える」を実現するために、進路ガイダンス等を活用したキャリア教育を充実させる。	修学旅行事後アンケート 学科別研修(初日)満足度95%、学科別研修(最終日)満足度94%、班別東京研修満足度96%、TDR研修満足度96%	B A B					・修学旅行の生徒事後アンケートでの満足度は高く、集団行動における規範意識や計画立案の大切さを身に付けさせることができた。進級するにあたり、学校をリードする立場になるための心構えや自身の進路に対する考えを明確にできるような取り組みを続けていく。	A	・修学旅行では生徒の主体的な活動計画が評価できる。
	3学年	栄えある福工生としての自覚と誇りを涵養し、自ら考え、行動する主体的な態度を育む。	ともに学び合い、励まし合い、競い合い、許し合い、切磋琢磨して高め合う集団づくりに取り組む。 困難さを改善すべき課題ととらえ、解決しようとする生徒を育成するためにキャリア教育を充実させる。 保護者や各分掌との連絡を密にし、教職員間で情報を共有して積極的な生徒指導や進路指導を行う。	1次就職内定率93.4% 推薦入試合格率82.0% 学校生活アンケート及び家庭用チェックリストによる不安なく安心して学校生活をおくれている割合99%	B A A					・年内の全員合格内定を来年度も目指す。一次試験内定率100%を目標に指導する。 ・総合型入試へ向けての各学科や教科と連携した受験支援及び指定校推薦の面接指導と学習支援の徹底を図る。	A	・皆勤率が高かった。学校に行きたい、学校が楽しいと思える雰囲気作りが感じ取れた。

専門学科	染織デザイン科	主体的に貢献できる工業人財を育成する。	学校行事・科内行事をととして学年ごとの目標を定め、実行力の育成と達成感の経験を通じて人間力向上を図る。 生徒一人一人の進路希望を把握し、学年別進路指導を行い、1次希望による進路決定率100%の実現に取り組む。 資格試験合格率前年度比5%増、色彩検定全員合格と3年連続文部科学大臣賞受賞を目指す。	生徒の1次希望による進路決定率:95% 色彩検定 合格率:96.6%	B B B	B	・進路については、進路先の決定の中でしっかりと自己理解ができ、スムーズな対策が確立できた。 ・生徒の多様化に対する教職員のスキルアップが求められており全員で取り組んでいく。	A	・課題研究発表会では身近な問題や社会問題の解決にチャレンジするなど感心した。 ・大規模な実習棟の工事が行われているなかで、質を落とさない教育をしているのが素晴らしい。 ・実習棟の工事が行われているが、企業と連携してそこを活用して生きた教育を実施して欲しい。 ・安全教育は現場での事故を防ぐために重要である。徹底して欲しい。 ・商業施設での企業との連携した取組は非常に意義がある。継続して取り組んで欲しい。 ・学科ごとのリーフレットを作成し、中学生の広報活動に活用したらどうか。
	建築科	建築技術者として、安全で安心して暮らせる社会の発展と文化の創造に貢献する次世代の工業人材を育成する。	社会人として通用する規範意識や時間管理、言葉遣い等の基礎基本を確立させる。 関連授業の充実を図り、建築施工管理技術検定受験者の全員合格に取り組む。 希望進路の自己実現に向けて、生徒個々の進路に対する状況を把握し、支援を行う。	生徒の1次希望による進路決定率:100%	B C A	B	・就職希望者1次全員合格達成することができた。しかし、施工管理検定全員合格を達成することができなかったため、指導体制を整えていく。		
	機械工学科	ものづくりや工業技術に興味・関心を持たせ、リーダーとなれる生徒を育成し、生徒の希望進路実現を目指す。	挨拶、時間厳守、言葉づかい、整理整頓等、リーダーとして必要な基礎・基本を指導する。 資格取得の目的を明確にし、自己のスキルアップのための資格取得に積極的に取り組ませる。 生徒一人一人の進路意識の高揚と学校生活の充実を図り、1次希望による進路決定率100%の実現を目指す。	生徒の1次希望による進路決定率:95%	B B A	B	・進路については、自己のキャリアについて意識高揚を図ることができた。次年度は、機械科工場移転に伴う中で関係各所との連携を深めることや、専門的な知識や技術の習得に向け実習等の改善を図る。		
	機械工学科 工業進学コース 工業進学科	理工系大学進学に特化した学科の特性を生かし、専門座学・実習・課題研究をととして、未来の工業界を牽引する研究者・開発者としての志を育成する。	少人数授業の特性を生かして専門に関する知識を身に付けさせ、国公立大学・高専・難関私立大学への進学率70%に取り組む。 キャリア教育の充実を図り進路意識を向上させることで、自ら学ぶ力の重要さに気づかせ、家庭学習の増加に繋げる。 生徒の課外活動や資格取得を奨励し、総合型選抜や学校推薦型選抜への対応力を充実させる。	国公立大学・高専・難関私立大学への進学率 63% 国公立大学への進学者8名	B B A	B	・国公立大学の合格者が8名と、例年より多くの合格者を出すことができた。国公立をはじめ総合型選抜を取り入れる大学等が増加しており、その対策の充実に取り組む。		
	電子情報工学科	基礎基本を大切に、社会の技術発展に影響を受けやすい学科の特性を生かし、生徒が新しいことに挑戦できる学科への道筋をつくる。	生徒の多様な進路を見据え、実習内容の改善を図る。 文化祭、中学生体験入学等において、生徒が学んだことをアウトプットして成長できる機会と捉え、生徒の充実感と自己肯定感を育てる。 計算技術検定3級合格率、ICTプロフィエンスー検定3級、情報技術検定3級90%以上に取り組むことにより、資格を積極的に取得できる環境を整える。	ICTプロフィエンスー検定3級 R6 12/20時点 約90% 総合結果についてはR7年3月までに100%を目指す。	B A A	A	・次年度が電子情報工学科完成年度である。今年度取り組んだDX事業の内容を実習等に反映させ、デジタル人材の育成を促進することで、生徒が達成感を得られる内容にしていく。		
	情報工学科	生徒40名の希望進路実現	国家資格取得生徒10名を見据えた専門的な教科指導を行う。 年間皆勤者数30名を目指し、日頃の観察や声掛けを行う。	国家資格取得生徒11名	A B	A	・1年次から国家資格取得に向けた意識づけができており、自主的な学習を促すことができた。		
	電子工学科	卒業後も、学ぶ姿勢を持ち続ける生徒の育成を目指す。	生徒が自身のことを振り返り、自己理解を進め進路選択を決定するためのキャリア教育を実施する。 生徒の学びたいという意欲が出せる実習・課題研究に取り組む。	第二級陸上特殊無線合格率 87% 第二級海上特殊無線合格率 90% 航空特殊無線合格率 79% 第二種電気工事士取得者 7名	A A	A	・最後の電子工学科の学年であったが、就職・進学も専門分野を生かした進路に多くの生徒が進むことができた。		
	環境化学科	基本的な生活習慣や自ら考え行動する力を身に付けさせるとともに、化学技術者として自ら課題を見つけ解決できる人材を育成する。	実習や学校行事をととし、時間厳守や整理整頓など社会人として必要な能力の育成を図る。 自ら考えて学習に取り組む力を育成するために、授業改善や実習内容の検討を行う。 危険物取扱者試験の指導体制を見直し、合格率向上に取り組む。	生徒の1次希望による進路決定率:92%	B B C	B	・進路については、自己の意識向上に努めることができた。資格試験の合格率が低下しているため、専門学科職員複数で取り組む指導体制を構築する。		

電気工学科	電気技術者として全教育活動をおして、知識・技能を身に付けさせるとともに、何事にも積極的に取り組むことができる向上心を持つ生徒を育成する。	自ら学習に取り組む力を育成するために、積極的に授業改善に取り組み、電気技術者として必要な学力の定着を図る。	生徒の1次希望による進路決定率:92%	B	B	・第2種電気工事士の合格率70%を達成することができた。次年度は合格率をさらに高めることができるよう指導に取り組む。また、1次希望による進路決定率100%を達成するため、専門の知識や技術、社会性を高められるよう指導を行う。
		第2種電気工事士試験の指導体制を整え、1学年の合格者を昨年度より20%upの70%を目指す。	第2種電気工事士筆記試験1年生(全員受験)合格率77%	A		
		ものづくりをとおして積極性の大切さを気づかせるとともに、危険予測や表現力を身に付けさせる。		B		
都市工学科	土木技術者として、自信と誇りを持ち何事にも主体的、積極的に取り組むとともに社会性やコミュニケーション力が発揮できる生徒を育成する。	基礎学力の向上を目指し、専門科目の関心も深め、自ら判断し行動できる力を育成する。	就職希望者の第1希望会社の合格率:100%	B	B	・進路については、就職希望者を5年連続で第1希望企業に合格させることができた。次年度は、生徒に限られた場所や機材でも専門科目への関心をより深めるために、体験的に学べる実験実習の内容を精査し確立する。
		挨拶や時間、身だしなみ等、基本的な生活習慣を確立させ、社会に貢献できる生徒を育成する。		B		
		生徒一人一人に合った進路希望の実現に向け支援し、5年連続第1希望会社の合格率100%を目指す。		A		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を推進し授業力をを向上させ、生徒の学力向上とともに主体的・能動的に学び続ける姿勢を育む。 ・計画的・系統的な進路ガイダンスや外部機関との連携を効果的に実施しキャリア意識の醸成を図る。 ・専門的指導力の向上を図り、各学科の特徴を生かしたものづくり、国家資格、研究・競技大会等への指導体制を充実させる。 ・特色ある教育活動を発信し生徒の自尊感情や満足度を高めるとともに地域から愛される学校を目指す。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A:適切である
	B:概ね適切である
	C:やや適切でない
	D:不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・工友会(同窓会)との連携を一層充実させ、教育活動に生かして欲しい。 	